

グリーンフルの(SUN)がSUN SUN

川崎美紀の
SMILE通信

きょうも
おもてなし
日和



Vol.27 待ったなしの環境問題

の利害がぶつかりあいます。環境と貿易は特に、それぞれの立場や状況の違いが大きいようで、折りあうことが難しいテーマだと感じました。

深夜まで断続的に続く会議は、当事者の皆さんが大変であるとともに、事務方のサポートスタッフも二日間交渉のセッティングや調整に、精力的に動いていました。深夜に向かうほど、場内のあちこちで立ち話が増え、水面下交渉が進行している気配を感じました。

結局、2050年までにプラスチックの海洋流出をゼロにする「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が採択されましたが、その準備作業をずっと見守ってきた者としては、サミットで発表された宣言を見て、ため息が漏れました。

G 20大阪サミット2019が無事に終わりました。世界の主要な国と機関のトップが一堂に会し、同じテーブルに着くことはそれだけですごいことです。

30年先で大丈夫？
プラスチックごみゼロ目標

私は事前会合〔シェルパ会合〕の運営に参加しました。シェルパとは、ネパールの少数民族で、ヒマラヤ登山の際のポーター〔荷物運び〕やガイドを務めることが多いことから、現地案内人の総称になりました。

サミットは山の頂（いただき）を意味するので、本会議に先立って

何も決まらないよりはよいのかもかもしれませんが、30年先で大丈夫なのか、それまでに海がプラスチックであふれないか、食物連鎖としてヒトの体内にもかなりの量が蓄積されるのではないかと、2050年はるか先の時間、他人事感を感じざるを得ません。

確かに、会議の場でもプラスチック製品の使用がかなり控えられていたことは事実です。机上に提供されていたミネラルウォーターは世界的に有名なメーカーのものでしたが、びん入りでした。初めて目にするものでした。また、ロシアのプーチン大統領が持ってきていたマイカップが話題にもなりました。

一方、国内ではサミットに合わせて、コンビニやスーパーでプ

調整のための予備会議を行う側近（そっきん）や代理人をシェルパと呼ぶようになったのです。6月号に書きましたが、私はイベントの仕事もしており、今回はその流れでお手伝いすることになりました。

シェルパには全権が委ねられていて、時折、後ろに控える数人のデリゲート〔代表者〕と相談しながら国や機関を代表して発言する様子がありました。発言の際に議長から指名されるときは国名で呼ばれます。

一国を代表するカッコよさですが、責任重大です。私の仕事は、彼らの作業が進みやすくなるためのサポート役です。国際会議ですから、各国

プラスチックバッグの無料配布の制限、有料化の発表がありました。

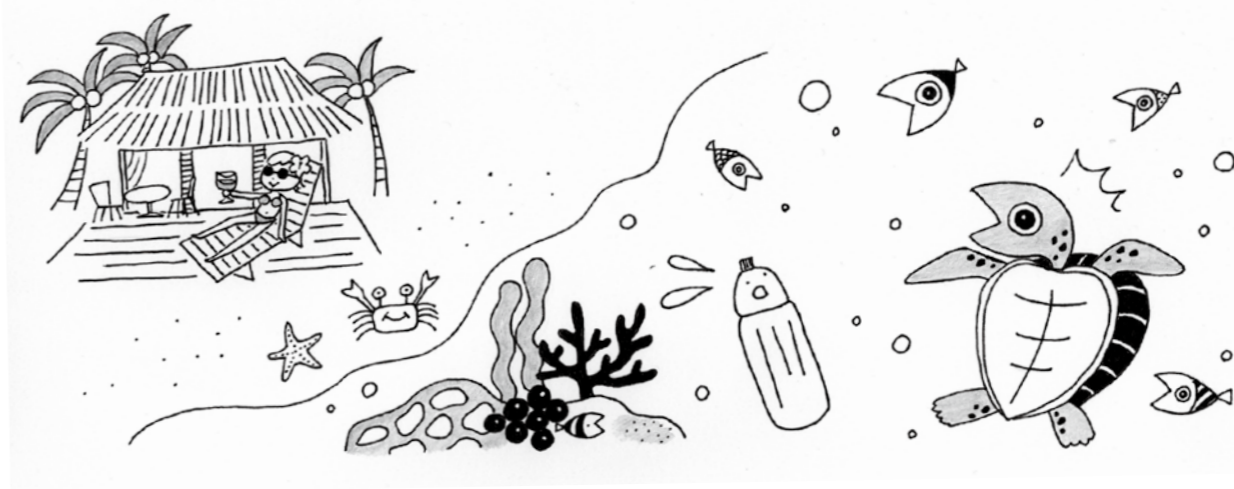
どうしても取って付けた印象が拭えませんが、こうした行動がその場しのぎではなく、自然で当たり前として受けとめられる日が一日でも早く来ることを期待します。

観光客にごみ持ち帰りを訴える
モルディブの危機感

地球温暖化など環境問題は待ったなし、です。

3年前に訪れたインド洋に浮かぶリゾート地モルディブで、そのことを痛いほど感じました。

モルディブは1島1リゾートがコンセプト、美しく素敵なところ。観光が主な収入源です。シンガポールやスリランカのコロンボ経由での



イラスト★ささきさとみ (http://blog.goo.ne.jp/satomi343)

アクセスはよくないのですが、自然が残る島に広がるプライベートビーチや魚影が濃い海は、他にはない魅力があります。

歩いて一周20分の小さな島は、東側は特に波による侵食が進んでいて、海岸に沿って建つビーチヴィラのいくつかはすでに使えない状態だったことを覚えています。温暖化の影響です。

モルディブの空港には「持ってきたプラスチックをはじめとするごみはどうぞ持ち帰ってください。私たちの国には高機能の焼却炉がありません。燃やせないものは埋めるしかありません。みなさんの国のほうが進んでいますから、これからも永く自然を楽しむためにご協力をお願いします」——。こうはっきり書かれていました。

衝撃的でした。観光が主な収入源の国で、観光客へごみの持ち帰りを

はっきりと明言している姿勢は立派です。

と同時に、危機感が伝わりました。モルディブがなくなってしまったら困ります。こんなに癒される場所を他に見つけることはできない、と思いました。

ウミガメのぬいぐるみに思う
自然環境の尊さと課題

リゾートのつくりは、海岸に沿って宿泊するコテージやヴィラが点在し、沖には水上コテージもあります。島の中心にスタッフ用の施設があり、そのなかには確かにごみ処理施設もあります。

気のおけないスタッフに聞いてみると、燃やせるものは燃やして灰は埋め立てる、人の排泄物は沖まで伸びるパイプで運び海中投棄する、と。

言われてみると、シュノーケリングの途中でパイプラインを目にして

いました。島の周辺は遠浅の珊瑚礁（さんごしょう）、珊瑚礁のエッジは急激に落ち込み、のぞき込んでも先がわからないほど深く青く暗い外洋です。

その辺りは特に魚の数が多いなあと思って楽しみました。うーん、どおりでよい餌（えさ）が豊富だったからか！人間も自然のサイクルの一部だと再確認できる場所でもあります。

そしてリゾート存続のためにと、ひとり1日1ドルの寄付を募っていました。私は寄付をした代わりにカメのぬいぐるみももらいました。いまも自宅の洗面スペースに置いてあります。手のひらに乗るくらいのサイズで布で作られていて、中には砂が入っていて適度な重量があります。

甲羅はみどり色のウミガメ、可愛い表情をしています。このカメを見るたびに、環境について思いを馳せます。



川崎 美紀 (かわさき・みき) オフィスリバー研修講師 <http://www.officeriver.biz>
国際線キャビンアテンダントとして10年乗務、2005年JALアカデミーのインストラクターとなる。同時に個人事務所・オフィスリバーを立ち上げ、2012年独立。2015年日本キャリア開発協会認定キャリアディベロップメントアドバイザー(CDA)の資格を取得。主に企業を対象に、ニーズに応じた研修を提案し提供。近年はビルメンテナンス・警備・ホテル・金融機関など各業界での研修実績を持つ。ビルクリーニングカレッジでは「おもてなしマナー」トレーナー講習を担当。